

ごあいさつ

広島県安芸郡熊野町

町長 三村 裕史



「第46回ふれあい書道展」が、多くの書道愛好家の御理解と御協力をいただき開催できましたことに対し、厚くお礼を申し上げます。

広島県熊野町は、伝統的工芸品「熊野筆」で知られる「筆の都」として、長年その文化を継承し、栄えてまいりました。現在は書道用の筆はもちろんのこと、化粧筆や画筆においても高い技術と生産量を誇っております。

本町では、春の「筆の日」、秋の「筆まつり」など、人々が筆を身近に感じ、親しめる取り組みも行ってまいりました。学校教育においても、低学年から毛筆に親しませる教育として、伝統工芸士による筆づくり体験指導を行うほか、小学1年生から書道を授業に取り入れるなど、筆文化を未来につなぐ、地域の特色を生かした試みを実施しています。

さて、今回で46回を迎えたふれあい書道展は、平成11年から続く全国の書道愛好家を対象とした公募展となっています。今回は全国47都道府県の1,517団体から、最年少は2歳から最高齢は109歳までの幅広い書道愛好家の方々からのご応募をいただきました。また、国内のみならず海外からも104点の応募をいただき、応募数は過去2番目に多い18,459点となっております。このことは筆の都熊野町として感謝すべきことで、書に親しみ、筆を持つ喜びを多くの方に味わっていただくことで、筆から生まれる文化の振興と交流が深まっていることを実感しています。

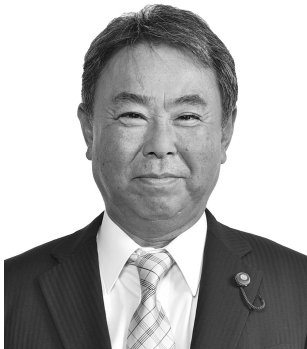
このふれあい書道展では、厳正かつ公正な審査によって、賞が決定しています。書を志す方はもちろんのこと、少しでも書道に興味のある方、腕試しをしてみたいという方も是非ご参加いただき、書を楽しんでいただきたいと思います。

結びに、この書道展を開催するにあたり、広島県、広島県教育委員会その他関係諸団体の皆様から御支援、御協力をいただきましたことに深く感謝の意を表し、御挨拶といたします。

第46回ふれあい書道展について

全国書画展覧会運営委員会

委員長 時光良造



「ふれあい書道展」は、書を生活に取り入れ親しんでいただくため、平成11年に始まり、年2回の募集で、第46回を迎えることができましたことに深く感謝を申し上げます。

今回は47都道府県と海外の1,517団体から過去2番目に多い18,459点もの素晴らしい作品が届きました。本書道展にふさわしく、2歳から109歳の方まで、実に幅広い年齢層の方からご出品いただきました。今回も台湾やタイから作品が届き、海外においても筆を持ち、書に親しんでいる様子を伺うことができました。

本書道展は、小・中学生は書写作品を推奨し、いわゆる書の流派などにとらわれない公正公平な審査を高く評価していただいています。また、筆を持つ楽しさを末永く記念にさせていただくため出品者全員に自分の作品画像入りの賞状を贈呈して喜ばれています。

最終審査は審査長として、今回も元文部科学省教科調査官で東京学芸大学名誉教授の加藤祐司先生、前文部科学省教科調査官で東京学芸大学教授の加藤泰弘先生にご依頼し、特別賞40点の作品を厳正に、慎重に選んでいただきました。

なお、「特別賞」「筆都大賞」「ふれあい賞」の優秀作品は、3月16日から3月20日までの5日間、筆の都熊野町の町民会館ロビーにおいて展覧会を開催しました。また、展覧会場の様子は、全国から見ただけのようにホームページ上で3月下旬から配信いたします。

ポストコロナにおいても、誰でも、いつでも、どこでも、筆を持ち、日本の伝統文化である書に親しみ、書を通じてたくさんの仲間との交流、創作活動が広がることを願っております。次回も皆様方からの作品をお待ちしています。

終わりに、この書道展の運営及び開催に当たり、広島県、広島県教育委員会をはじめご後援、ご協力をいただきました関係各団体の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。